CORE
Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
Provided by Kanazawa University Repository for Academic Resources

論文内容の要旨及び審査結果の要旨

受付番号　医薬保博甲第１３１号　氏名　竹本　大輔

論文審査担当者　主査　　山岸　正和

副査　　安藤　仁

崔　　吉道

学位請求論文

題　　名　正常眼圧緑内障におけるイソプロピルウノプロストンとラタノプロストの眼圧と視野経過に関する前向き比較研究

掲載雑誌名　Clinical Ophthalmology 2017:11 1617 頁–1624 頁　掲載

正常眼圧緑内障の患者に対して、抗緑内障薬であるイソプロピルウノプロストンまたはラタノプロスト単剤点眼投与による眼圧、視野ならびに視神経乳頭構造への影響についてランダム化前向き比較検討をおこなった。対象は金沢大学附属病院眼科を受診した無治療の正常眼圧緑内障患者で、本研究に対する同意が得られた 48 例 48 眼とし、イソプロピルウノプロストン点眼群（UNO 群）とラタノプロスト点眼群（LAT 群）にそれぞれ 24 例 24 眼ずつ無作為に割り付けた。主要評価項目は、36 か月間における眼圧変化、視野変化とした。眼圧は、投与前と投与後 3 か月ごとにゴールドマン圧平式眼圧計にて測定し、投与前と投与後の平均値を比較、ならびに投与前後での両群の平均変化率を比較した。視野は、投与前に 2 回、投与後 6 か月ごとにハンフリー視野計 30-2 プログラムにて測定した。視野評価は平均偏差(MD) 値、パターン標準偏差（PSD）値といった一般的指標に加え、本研究ではより局所的な悪化を鋭敏にとらえることを目的として、上または下半視野トータル偏差（TD）値、視野のセクター別 TD 値も使用した。それらの値がベースラインよりも 3dB 以上 2 回悪化したときの 1 回目をエンドポイントとし、36 か月後の視野の累積生存率をそれぞれ検討した。眼圧は、UNO 群と LAT 群の投与前 15.0±2.4、15.2±1.9mmHg に対して、投与後の平均値は 13.7±2.3、13.0±1.8mmHg と、両群とも有意に下降し、投与後眼圧は LAT 群が UNO 群より有意に低かった。視野は、累積生存率は MD、PSD、その他各指標においても、UNO 群、LAT 群の間でそれぞれ有意差はなかった。以上の結果より、イソプロピルウノプロストンはラタノプロストより眼圧下降効果は劣るが視野維持効果に差がない可能性があることが分かった。緑内障に対しては、眼圧下降は現在唯一、治療効果が確立されている治療であるが、本研究により眼圧以外の因子の視野維持への影響が示唆された。イソプロピルウノプロストンの持つ作用機序から、眼圧以外の因子として、神経保護と血流改善が考えられる。今回の研究から得られた知見は、今後の緑内障薬物治療において有用と考えられ、本研究は学位論文に値すると考えられた。